

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270202833
法人名	社会福祉法人 佐世保市社会福祉協議会
事業所名	グループホーム よしいの郷
所在地	長崎県佐世保市吉井町橋川内570番地4 (電話) 0956-64-4001
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成 21年 1 月 28 日

【情報提供票より】 (平成20年12月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 2 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	2 ユニット 利用定員数計 1 人 19 人 常勤 8人, 非常勤 12人, 常勤換算 8.05人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (12 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護 1	5 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	6 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	65 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松瀬医院 (内科)	法師山歯科医院
---------	-----------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所というより、自然に囲まれた緑豊かな環境の中にある家になっている。駐車場や中庭は十分な広さがあり、利用者がいつも中庭での散歩を楽しんだり、ベンチでは日光浴をしたり、居室からも出られるウッドデッキなど普通の暮らしを支援している。家族の面会が頻繁で職員や利用者とのコミュニケーションがとれており、利用者の表情は明るく穏やかで、笑いがたえない。佐世保市社会福祉協議会を母体とし、市や地域との連携は積極的に行われている。研修においては職員、パートの区別なく積極的に参加し、スタッフ会にて報告し、資料と一緒にファイルングして共有化されている。又職員は毎月の会議などで理念の確認の基に行われ、その人らしい暮らしを支えるために、限りなく耳を傾ける姿勢で支援されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の改善項目は改善シートを作成し、改善に向けて取り組みがされている。特に重度化や終末期に向けての対応として、所長自ら研修に参加したり職員間での勉強、研修が行われている。家族や医療機関を含め何度も話し合いをもったりしながら、方針に向けての体制作りをしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価の意義が職員に説明され、職員自身がケアの振り返りや見直しに活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議では月例報告として2ヵ月間に行われた行事の報告や次月行事計画の案内をしている。自己評価や外部評価の結果についても報告され、ファイリングして見られるようにしている。会議の中で出された意見として、グループホームの目印になる看板設置の要望や、利用者が行事などで外出する際のボランティアの申し出があり、ホームとしてそれらを取り入れるなどの取り組みがされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族の面会が頻繁にあるだけでなく滞在時間が長いため、職員は利用者、家族を交えての会話が多い。家族の意見や要望、苦情なども職員に言える雰囲気作りがされており、情報収集も細かく記載され、そのつど対応をしている。家族会意見反映のためにと、現在「満足度調査」が他のホームも一緒に計画されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	自治会に入会しており、公民館及び周辺の掃除、火災警報器設置についての説明会、又ふるさと祭りなど自治会の行事に参加している。散歩時には声かけや挨拶をしたり、行きつけの美容院へ出かけるなどして触れ合う機会を支援している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念であり、利用者が普段の生活に何の変わりがないように、又地域の中で暮らせるようにとの想いで作成されている。「暖かい雰囲気の中で穏やかに、家族のようにゆっくりと安心して過ごせるように」との言葉通り、日々利用者と職員が共に楽しく、笑えるような関係づくりがされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念においてはスタッフ会議において唱和したり、確認をして共有するなどして意識している。又ホーム内の見える所に理念を掲示しており、日々の生活を通じて意識しながらケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入会しており、市民大掃除や自治会主催のふるさと祭りなどに参加している。又地域の婦人部や民生委員の協力もあり、地域のボランティア活動の方と一緒に折り紙を折るなど交流がされている。庭の側では地域の老人会のグランドゴルフが行われており、挨拶や声かけ、又見学するなどしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を職員が理解して取り組んでいる。ケアの振り返りや見直しについて確認している。外部評価の結果においては、運営推進会議でも報告し改善項目は計画に基づき、日々の生活を通じて、あるいは家族を交えて話し合うなどしている。		

グループホームよしいの郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催しており、参加メンバーは包括支援センター職員、市の職員、保健師、民生委員、家族、利用者代表、事業所所長、職員2名である。行事案内や利用者の様子、又自己評価や外部評価の結果をうけての意見交換などしている。参加者の意見として、「ホームの場所が分かりづらいので看板設置を」との声があり、看板を設置している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の所長は、市の地域密着型サービスの委員をしており、同業者との交流が深く、関係づくりがされている。又運営やサービスについても協議するなどして、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が非常に多く、面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態の報告などしている。金銭面においては、面会時に請求書の説明をし確認印をもらっている。家族への報告に関する書類はすべて確認印がある。遠方の方へは「よしいの郷便り」郵送時に一緒に報告している。職員異動の場合は面会時、又遠方の方には便りで案内するなどして報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時の滞在時間が長いと、何でも言ってもらえる雰囲気作りをしている。利用者の意見や苦情が出しやすいように意見箱の設置があるが、苦情はない。又面会時は職員との交流の場もなっている。現在法人内で「満足度調査」を作成し実施するなどの計画をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は各ユニット間で行われており、普段から各ユニットでの交流がある。職員は普段からレクリエーションやドライブなど利用者との馴染みの関係が出来ており、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

グループホームよしいの郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルを、事業所の所長始め管理者が把握しており、レベルに合わせた研修計画を立て、受講のための勤務調整を行うなどしている。正社員、パート共に法人内外の研修に参加し、スタッフ会議にて報告し全職員で共有化されている。又市の連絡協議会に積極的に参加し、看護師による食中毒やノロウイルス対策の指導では、職員全員で共有し日々の生活に役立てるなどして、スキルアップに繋がっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会の研修に正社員、パート共参加しており、他の事業所の職員と交流を図り質の向上に努めている。同業者のホーム見学や、他のホームの見学に行くなどしてお互いのホームのサービス向上に繋がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者と家族が見学に来たり、職員が自宅を訪問するなどしている。又慣れるための生活歴や生活状況を把握して記録するなどしている。利用者の入居の際は家族も一緒に、ホームのレクリエーションなどに参加するなどしている。又利用者同士が同じ趣味があれば、傍におき会話がスムーズにできる支援がなされている。慣れない方場合は職員が寄り添い傾聴の姿勢で臨むなど支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケアアセスメントや日々の暮らしの中から得た会話から、職歴や趣味を把握している。利用者の尊厳をきずつけないように配慮した声かけや、側に寄り添ったり、話を聞いたりしながら、支え合う関係づくりをしている。利用者の中には生け花や書道、ジャムづくりなどの得意分野とする方がおり、職員は学ぶことが多いだけでなく、喜びとなっている。		

グループホームよしいの郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の暮らしの中から、要望や悩みなどを把握し個別に記録するなどしている。月1度のスタッフ会で職員が報告し、話し合うなどして本人の意向の把握に努めている。困難な場合であっても、支援する中で表情や行動の変化などから把握し、こちらから決めつけない言葉かけをするなど、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が利用者本位の介護計画という意識があるため、毎日モニタリング実践記録表に記録している。毎月のスタッフ会時に、項目別に記録したモニタリング実践記録表をもとに、利用者、家族の要望を含め検討し作成している。作成後は家族の面会時に説明し、サービス計画確認表に本人、家族の署名、確認印と共にスタッフ説明日を記載している。サービス計画確認表にて、サービス毎のチェックを毎日行うなど、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月1回の見直しをしており、変化が生じた場合はそのつど家族やかかりつけ医と相談しながら対応している。家族の面会回数が多いので、面会時にそのつど意見交換をしたり、家族の要望を取り入れるなどしながら、現状に即した新たな計画を作成している。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて柔軟な支援をしている。外出、希望の買い物や行きつけの美容院への送迎、家族の宿泊希望の受け入れ、かかりつけ医の通院介助など要望に応じて支援されている。		

グループホームよしいの郷


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医だけでなく、利用者、家族との相談のうえ、症状に合わせてかかりつけ医の支援をしている。半年に1回定期検診が行われ、家族にもその都度報告している。症状に応じては往診の援助もあり、家族が納得できるための適切な医療を受けられる支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常における緊急時対応や健康に関する対応は統一化されている。重度化や終末期のあり方については、夜間の問題や、医療機関との連携の難題を抱えているが、家族や医療機関、関係者全体で何度も話し合いを行い検討している。又所長自ら地域医療学会に参加したり、スタッフ会での勉強や、職員も研修に参加するなどしている。ホームとしての方針の検討を継続している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が利用者に接する態度や言葉かけには十分注意を払っている。利用者の尊厳を大切に言葉を選ぶなど対応している。個人情報保護においては家族から同意書を得ている。又毎月のスタッフ会で職員始めパートについても、個人情報保護法の理解に努め守秘義務が徹底され、誓約書を得ている。記録などの保管については鍵のかかった部屋におくなどしている。	○	書類の保管の仕方、保管場所が家族との面談や外来者との相談場所になっており、透明の扉から書類に記載されている事柄や利用者の名前が見えるため、保管の仕方を見直すことを期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、その時の体調や気分などで対応しており、無理しないよう支援している。利用者のしたい事を利用者自身が表に作成しており、体操、演芸運動、ボーリング、織物、書道、花いけ、など個別の希望を尊重し、支援している。		

グループホームよしいの郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえとして大根やニンジンの皮むきや配膳、後片付けなど利用者が出来ることは手伝ってもらっている。誕生日には食事内容をかえたり、ご飯をおにぎりにしたなどの利用者の希望に沿ったりしている。又職員全員が一緒に席につき、話しながら食事をしたり、家族の要望があれば取り入れるなどして、食事を楽しむことのできる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回曜日を決めて行っているが、利用者の希望やタイミングに合わせて支援している。利用者がゆっくり楽しめるようにと、二人でも入浴できる広さや温度計の設置などの配慮がされている。又入浴が困難な方は職員が二人体制で行ったり、入浴を拒む方へはさりげない声かけをしながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や日々の生活の中で知り得た事を細かく情報シートに記録し、把握に努めている。書道や花いけ、折り紙、洗たく物たたみの手伝いなどの支援をしている。又2ヵ月1度の入所会ではテーマを設け、利用者の食べたい物や行事などを掲げるなど、楽しみ事や気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日曜日は個別外出や利用者の希望による買い物、理美容院、又ドライブなどの外出支援をしている。天気の良い日は下肢筋力保持のためにも散歩を入れ、歩くことが困難な時は車イスでの支援を行っている。又広々とした中庭は自然環境が整っており、散歩を楽しまれる利用者もおり、戸外に出られる支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみ行い昼間は鍵をかけない支援をしている。職員はその場を離れる時は必ずひと声かけるなどして、見守りと利用者の所在チェックに気をつけている。利用者が外出する場合は一緒について行ったり、近隣の消防団長にも見守りをお願いするなど、自由な暮らしを支える支援をしている。		

グループホームよしいの郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回、利用者を含め実施されており、避難経路の確認や、夜間を想定した訓練もしている。火災、火事、救急、緊急、事故発生時の対応マニュアルが作成され、又夜間の緊急通報体制が確立されている。職員においてはスタッフ会で心拍蘇生などの勉強会がされている。日頃より他の事業所の協力や地域の方の協力が得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の摂取量や残存量、水分量においてもチェック表や介護記録などに細かく記録している。献立は事業所本部の管理栄養士にて作成されており、栄養バランスが取れるようしている。又各ユニットで利用者に合わせて、好みや健康状態で主食や副菜の量を調整するなど食事形態にも工夫がされ、個別に応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく掃除も行き届き、気になる臭いもないよう換気にも配慮するなど、居心地いい空間となっている。何処からも自然の景色が見え、季節感が味わえるようにしている。各棟自由に行き来が出来、中央には植木や花壇が置かれ、自然と触れ合うことへの配慮がされている。居間では畳やソファで思い思いにくつろげ和やかに過ごせるよう、家庭的な雰囲気作りに配慮し支援されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッドの他、畳の部屋もあり利用者の好みを受け入れられるように支援されている。利用者の馴染みの物や手作りの物、写真など慣れ親しんだものが置いてあり居心地良く過ごせている。又部屋の名札は利用者の目の高さや色別にてわかるようにするなど、本人が居心地よく過ごせる配慮がされている。		

※  は、重点項目。